

「事業名:福島浜通り地域社会フィールド実証学際拠点の構築」 令和4年度補助事業の実績・成果

東北大学(共同申請:東北学院大学) 連携市町村:南相馬市、浪江町、葛尾村

連携協定締結日: (南相馬市・浪江町)令和元年11月7日締結, (葛尾村)平成28年10月21日締結, (RTF)令和元年7月30日締結

現地拠点: 福島ロボットテストフィールド(南相馬市)、葛尾村立葛尾中学校(葛尾村)

事業のポイント

福島浜通り国際教育研究拠点構想に呼応した東北大学としての現地拠点の確立に向けて、NICHe、農学研究科、TCPAIがこれまで取り組んできた実績をさらに連携させ、分野間の連携融合による大学シーズの地域社会実装により、課題解決と新たな地域産業の具現化を行える学際的人材のOJT、PBLによる育成基盤構築に取り組む。

今年度の活動実績

○現地での総活動日数: 220日(2022年4月1日～2023年2月14日)

【教職員(自学)】 現地:337名/オンライン:23名 【学生(自学)】 現地:189名/オンライン:30名

【現地小中高生】 現地参加:154名 【現地社会人】 現地参加:255名/オンライン:41名

○現地拠点: (葛尾村拠点) 稼働:201日/活動教職員:のべ276名

(RTF拠点) 稼働:95日/活動教職員:のべ219名 他RTF利用:25日/来訪教職員64名, 学生57名

○人材育成アウトプット・アウトカム達成目標: ほぼ全て達成、かつ目標以上多数

・講義・演習: 復興農学, 復興・IT農学実習→目標達成、「被災地エクステンション」:3回61名(学生37名)

・ロボットPBL教育: 計6件7回25日実施(詳細下記)、目標を大きく上回り達成

・地元高校への出前授業: 計6回実施(小高産業技術高校)、かつ次年度拡大に向けた検討推進

・試行・実装事例: 作物ブランド化(5件)、アイガモロボ実証(試行2件)、モビリティ実装(2件)など

○イベント協力: あぜりあ市(6/5)、葛尾村盆踊り(8/14)、ロボテスEXPO(9/15,16)、ロボテス縁日(10/29,30)、南相馬市子ども未来フェスティバル(11/19)(3大学共同)、復興なみえ十日市まつり(11/19,20)、など



今年度の成果

○スマート農業普及、半農半Xモデル検討: 事業者調査、アイガモロボ実証反省会(12/19)

○復興農学講義・演習の実施: 被災地エクステンション継続拡大(9/21南相馬, 10/22葛尾, 1/13浪江)

○ロボット分野PBL: 救助ロボット性能試験(4月)、コレオノイド講習会(8月)、ロボテスEXPOでのデモ(9月)、ロボカップジャパンオープンレスキュー(10月)、ドローン離発着耐風試験(1月)、プラント点検ロボ検証(2月)

○試行・実装事例: 浜通り産作物ブランド化(5件:カラシナ特産品、加熱調理用トマト、カラシナ栽培、植物工場、中玉トマト・ミニミニカリフラワー)、アイガモロボ実証適用(抑草効果・収量予測技術検証)、超小型EV地域実装(福島RTF)、など

○大学間連携: 鳥獣被害対策における大学間連携、鳥獣被害対策ネットワークでのデータ共有・共用化

○教育プログラム: 実物・実車体験、課題解決型ワークショップ演習を取り入れた教育プログラムの構築・試行

